

第 144 回 学長定例記者会見

日時：令和 4 年 4 月 27 日（水）11：00～11：30

場所：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟 5 階 5F2 会議室

※ テレビ会議システムにより、記者会見の様様を同時配信

受信場所：東千田キャンパス 東千田校舎 S 棟 1F 会議室

※ YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. ウクライナからの学生受け入れについて
2. 自然観察図鑑『東広島キャンパスの自然観察』を出版しました
3. 令和 4 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」の受賞について
 - (1) 大学院統合生命科学研究科 田中 若奈 助教
 - (2) 大学院先進理工系科学研究科 橋本 涼太 准教授

【お知らせ事項】

1. HU Global Pitch Challenge 2022
ピッチコンテストで広島大学の 2 チームが企業賞を受賞
2. 宮島で地域性種苗を活用した緑化に協力しました

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和 4 年 5 月下旬

場所： 広島大学 霞キャンパス

令和 4 年 4 月 27 日

ウクライナからの学生受け入れについて

広島大学は、2 月 24 日にロシア軍がウクライナへの侵攻を開始したのを受け、翌日に武力侵攻への抗議とともに平和的解決を訴える学長アピールを発出し、学内緊急募金を実施するなど、ウクライナ支援の取り組みを進めております。

このたび、ウクライナ西部のリビウにあるイワン・フランクォ記念リビウ国立大学 4 年の男子学生（22 歳）を、本学理学部数学科に外国人研究生として受け入れることになりました。

本人はできるだけ早い来日を望んでおり、研究期間は半年から 1 年の予定です。本学大学院への進学も希望しています。

今後も、ウクライナの学生たちの学びと研究を継続できる環境を提供したいと考えています。

【お問い合わせ先】

大学院先進理工系科学研究科

教授 古宇田 悠哉

TEL：082-424-7333

E-mail：ykoda@hiroshima-u.ac.jp

令和 4 年 4 月 27 日

自然観察図鑑

『東広島キャンパスの自然観察』を出版しました！

総合博物館から、自然観察図鑑『東広島キャンパスの自然観察』を出版しました。広島大学東広島キャンパスは敷地面積 250ha（東京ドーム約 53 個分の面積）を誇るエコキャンパスです。古くから地域住民の薪炭林として管理され里山の豊かな動植物がひっそりと生息していました。教職員や学生の調査によりこのキャンパスには絶滅危惧種が 100 種類（2022 年 4 月時点）も確認され、身近な里山の自然を知る絶好の教材となっています。

本書は、広島大学総合博物館・広島大学東広島植物園を中心に学内の動植物の専門家が集まり製作した「身近な里山の自然を知る」ための自然観察図鑑です。キャンパスで確認できる約 300 種の動植物を掲載したほか、危険生物や春の七草、秋の七草、季節ごとに見られる動植物、その文化的利用や課題（外来種問題、竹林の拡大など）など、私達の身近に見られる動植物の不思議と現状、そして提言を写真とイラストを多用してフルカラーで分かりやすく解説しています。

Amazon のほか、大学生協でも販売（2,100 円（税込み 2,310 円））を予定しています。里山の自然教育や自然観察の教材として、是非ご利用下さい。

〈著者紹介〉

植物学に造詣の深かった故青山幹男氏（元長野県蘭植物園園長、広島大学技術センター緑環境アドバイザー）の残された図鑑草稿に広島大学の動植物を専門とする教職員 7 名（山口富美夫教授、池田秀雄名誉教授、中坪孝之教授、坪田博美准教授、清水則雄准教授、佐藤大規学芸職員（当時）、塩路恒生技術専門員）が増補追記し、職員・学生等の協力を得ながら出版にこぎつけました。

【お問い合わせ先】

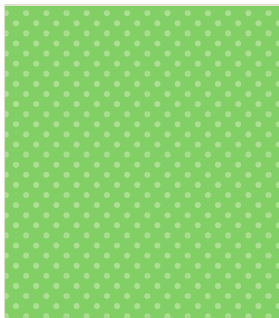
総合博物館

展示情報・研究企画部門

清水 則雄

TEL:082-424-4212

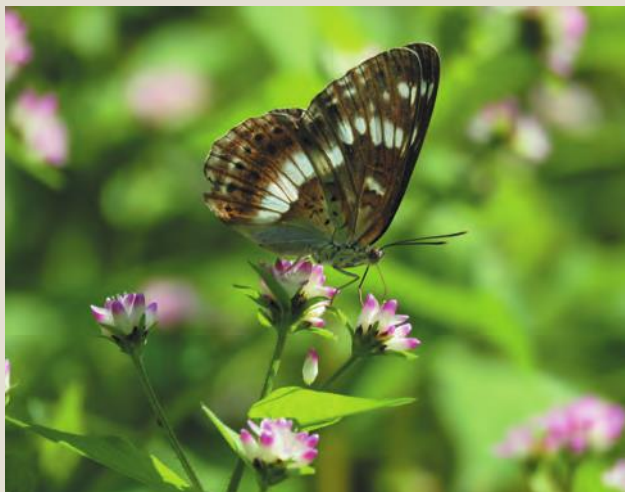
FAX:082-424-4263



東広島キャンパスの
自然観察



 広島大学総合博物館
Hiroshima University Museum





令和 4 年 4 月 27 日

令和 4 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰

「若手科学者賞」の受賞について

令和 4 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、本学の教員 2 人が、「若手科学者賞」を受賞しましたので、お知らせします。

【受賞者】田中 若奈（広島大学学術院大学院統合生命科学研究科 助教）

【業績名】「植物の分裂組織に関する分子発生遺伝学的研究」

【業績概要】

従来、植物発生学研究では、多様な植物種における形態形成機構の共通性と多様性に関する研究や、特定の植物に特有な器官・構造に関する研究は、十分になされていなかった。

田中助教は、イネを研究材料とし、特有な形態をした花とブランチ（枝）の形態形成機構を、植物発生の根幹である分裂組織（幹細胞集団）の役割と関連させて明らかにした。また本研究により、イネと、進化的に遠縁なシロイヌナズナにおける、花とブランチの形態形成の制御機構の共通性と多様性も明らかになった。

本研究成果は、植物発生の基本原理の解明をもたらすことから、生物学の教科書を書き換え学校教育に寄与することに加え、イネの花やブランチの形態形成は米の収量と密接に関係していることから、イネの品種改良に向けた研究にも応用可能であると期待される。

【受賞者】橋本 涼太（広島大学学術院大学院先進理工系科学研究科 准教授）

【業績名】「地盤と岩盤の力学に立脚した石積文化財の安定性評価法の研究」

【業績概要】

カンボジア王国の世界遺産、アンコール遺跡では、石積文化財の変状や崩壊が多数発生している。その要因の一つとして、建造物を支える地盤の変形や破壊が指摘されてきたが、地盤と石積の相互作用を考慮した力学的な安定性評価法は確立されていなかった。

橋本准教授は、地盤と石積、そして両者が接触する境界の変形挙動を統一的に評価可能な力学解析手法（弾塑性 NMM-DDA）を開発した。さらに、開発した手法によりアンコール遺跡に現存する建造物の安定解析を実

施し、基礎の支持力不足による不安定化メカニズムを明らかにするとともに、そのメカニズムに基づいた簡便な支持力評価式を構築した。

本研究成果は、今後、アンコール遺跡の建造物修復時の補修方法の設計に利用できる他、国内の城郭石垣などの他の石積文化財の保全にも幅広く応用可能であると期待される。

【お問い合わせ先】

大学院統合生命科学研究科

TEL：082-424-7927

大学院先進理工系科学研究科

TEL：082-424-7785

助教 田中 若奈

E-mail：wakanat@hiroshima-u.ac.jp

准教授 橋本 涼太

E-mail：ryotahashimoto@hiroshima-u.ac.jp



令和4年4月27日

広島大学 2017年度採択 世界展開力強化事業タイプA（インド）
「先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム」
外務省「2022年日本・南西アジア交流年周年事業」認定事業

「HU Global Pitch Challenge 2022」

広島大学の学生2チームがビジネスアイデアを発表し企業賞を受賞

本学の世界展開力強化事業（インド）「先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム（ILDLP）」は、3月20日（日）にピッチコンテスト「HU Global Pitch Challenge 2022」を開催しました。コンテストには、世界各地から100人を超える様々な業種の方々が参加しました。

コンテストには、広島大学の3チームと、インドのビルラ技術科学大学ピラニ校（BITS Pilani）の3チームが参加し、自分たちのアイデアやビジネスモデルのピッチに挑戦しました。そして、ベンチャーキャピタルや、アクセラレーター、大学発ベンチャー企業から参加した審査員と、活発な質疑応答を行いました。

表彰式では、BITS Pilaniからの2チームが最優秀賞を受賞しました。広島大学の学生チームは UW-Tracking が、バイタルリード賞と中国電力コンサルタント賞、グッドブレースが、復建調査設計賞を受賞しました。また、UW-Tracking へは、NASSCOM からバンガロールでの3カ月間のインキュベーションスペースが特別に提供されました。

コンテストは、HAX Tokyo、住友商事、ビルラ技術科学大学ピラニ校の協力により実施しました。また、本コンテストは、外務省「日本・南西アジア年周年記念事業」の認定事業です。

【お問い合わせ先】

広島大学 ILDPプログラム事務室

TEL/FAX:082-424-6954

E-mail: ildp-program@office.hiroshima-u.ac.jp

(別添)



審査結果発表の様子



企業賞の授与

【受賞チーム】

■最優秀賞

- Nawgati (BITS Pilani)
- Valerio Electric (BITS Pilani)

■企業賞

- バイタルリード賞：UW-Tracking（広島大学）
- 中電技術コンサルタント賞：UW-Tracking（広島大学）
- 復建調査設計賞：グッドブレース（広島大学）
- NASSCOM 賞：Valerio Electric (BITS Pilani)
副賞：インド・バンガロールにある同協会のインキュベーションセンターのスペース利用権 3 カ月分の提供

■その他

- UW-Tracking：NASSCOM より、インド・バンガロールにある同協会のインキュベーションセンターのスペース利用権 3 カ月分の提供

【審査】

■審査委員

- SOSV Investments LLC / HAX Tokyo General Manager 渡邊 美樹 様
- HAX Tokyo Director 岡島 康憲 様
- HAX Tokyo Director 市村 慶信 様
- PLIMES 株式会社 代表取締役副社長 下柿元 智也 様
- BITS Pilani 副学長 アールヤ・クマール 様
- BITS Pilani テクノロジービジネスインキュベーター 所長 サチン・アールヤ 様
- 広島大学 産学学連携推進部スタートアップ推進部門 牧野 恵美 准教授
- 広島大学 学術・社会連携室共同研究講座 松浦 康之 講師

■企業賞審査委員

- (株)バイタルリード 代表取締役 森山 昌幸 様
- 中電技術コンサルタント(株) 代表取締役常務執行役員 企画本部長 周藤 浩司 様
- 復建調査設計(株) 事業推進本部 副本部長 安達 誠 様
- NASSCOM AI&IoT 拠点長 ナヴラタン・カタリヤ 様

【出場チームの詳細】

■広島大学

1. **グッドブレース**：張思晋（先進理工系科学研究科）・中塚壮太（工学部）
建物の耐震性を向上させる新しい座屈拘束ブレースを始めとする最適な耐震技術を提供し、地震国の被害低減に貢献します。
2. **UW-Tracking**：AlOlabi Reem・吉岡大誠（先進理工系科学研究科）
社会的・経済的に強い絆で結ばれたコミュニティ、地域社会をつくるためのプラットフォームを通じて、社会に貢献する無報酬の活動を推進し、それを可視化し、地域通貨インセンティブを与えることに挑戦しています。
3. **Profound Inc.**：Kumar Deepak（工学研究科）・Naval Kishore Mehta・Prasad Shyam Sunder（インド中央電気電子工学研究所）
私たちの AI レストラン支援プロダクトは、飲食店経営者が最適なビジネスを構築し、料理の品質を維持しつつ、プロセスを最適化するために、時間、空間、労力

の分析に関連する情報技術を提供します。

■ ビルラ技術科学大学ピラニ校 (BITS Pilani)

4. **Wogi India:** Prakhar Vaishnav, Akhilesh Gowrishetty, Amarnath Sreekara
公共施設、商業施設における新型コロナウイルス等感染症対策として、自己除菌型（新型コロナウイルスに汚染されていない）ボックスオフィスを製造し、インドの経済活動の再開を後押しします。
5. **Nawgati:** Vaibhav Kaushik, Aalaap Nair, Abin Asokan, Navneeth P Sagar
迅速でシームレスな給油を実現するアプリによって、ドライブ経路の最適化、長距離ドライブ快適なドライブを実現、様々な特典を利用することで、長距離でも快適なドライブを可能にします。
6. **Valerio Electric:** Sarthak Mahapatra, Nirav Bhandari, Moksh Grag
電気自動車をシームレスにビジネスに取り入れることを可能とする、電気自動車の充電インフラとして、ユニバーサル充電器、電気自動車ユーザー向けモバイルアプリ、施設向けスマートダッシュボードなどの技術を提供します。

令和 4 年 4 月 27 日

宮島で地域性種苗を活用した緑化に協力しました

広島大学大学院統合生命科学研究科附属宮島自然植物実験所は、広島県廿日市市宮島で実施された、地域性種苗を活用した緑化への協力をおこないました。

宮島の貴重な自然を守るため、文化庁から許可を得た上で、広島県の策定した保護管理計画に基づき、地域性種苗を利用した植樹を令和 4 年 3 月に実施しました。

今回利用したタネは宮島島内で許可を得て採集されたものです。また苗は、宮島自然植物実験所の指導のもと、宮島学園の児童・生徒と廿日市市宮島支所、宮島弥山を守る会などの方々が宮島で採集したタネから育てたものです。

3 月 16 日の緑化は、広島森林管理署の体験植樹として実施されたもので、廿日市市立宮島小中学校（宮島学園）の生徒が参加しました。こちらではアカガシやアラカシ、シロダモなどの樹種を用いました。

3 月 29 日の緑化は、平成 30 年 7 月豪雨の復旧に伴う道路付け替え工事に伴い、実施しました。こちらではアラカシやウラジロガシ、シリブカガシ、ウリハダカエデなどの樹種を用いました。

これらの活動は地域の生物多様性を守るとともに、防災・減災の観点から、平成 26 年から進めている事業の一環です。



地域性種苗の植えつけの様子
(2022 年 3 月 16 日)



地域性種苗の植えつけの様子
(2022 年 3 月 29 日)

【お問い合わせ先】

統合生命科学研究科
附属宮島自然植物実験所 坪田 博美・内田 慎治
TEL:0829-44-2025 FAX:0829-40-2001